

## 仏縁に生かされて

総 務 藤 谷 知 良

新しい年を迎え、皆さまには清々しいお気持ちで新春をお過ごしのことと存じます。平素より本山ならびに宗門の歩みに深いご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年は前お裏方さまがご往生をされ、葬儀を勤めさせていただきました。その折には、宗門内外より多くの温かいお心遣いとご弔意を賜り、誠にありがとうございました。あらためて厚く御礼申し上げます。

年明け一月には、例年通り報恩講をお勤めさせていただきました。本年もこれにあわせ、幼稚園・保育園の子どもたち、そして多くの方々のご協力のもと、境内に竹あかりを灯し、浄土の世界を表現していただきました。柔らかな灯りに包まれた境内には、世代を超えて多くの参詣の方がお集まりくださり、にぎわいの中でも念仏申す尊いご縁となりました。

一方、現代を生きる私たちは、日々の忙しさに追われる中で、仏さまやご先祖に対する感謝の気持ち忘れがちになってはいないでしょうか。その姿は、いわゆる宗教離れや墓仕舞いといった形にも表れているように思われます。

御書には「追善をもととして、報恩の勤めおこたるまじきものなり」と示されています。

私たちは、つい「先祖を供養してあげる」「願いを託すために手を合わせる」と受け止めがちであります。しかし先祖供養とは、すでに仏となられた先祖さまのおはたらきによって、手を合わせる心を起こさせていただいていることへの報恩の勤めであります。

手を合わせるのが、いつの間にか自らの願い事を叶えるため、欲を満たすための行いになってはいないか、あらためて省みる必要があります。本来、手を合わせるということは「ありがとうございます」という感謝の心を表す行いであります。

これからも私たちは、感謝の心を大切に、念仏の声を絶やすことなく歩んでまいりたいと存じます。念仏申す日々の中で、あらためて仏さまのはたらきと多くのご縁に気づかせていただく一年となることを願っております。

宗 達

宗 達 第一二三六号

法主殿来る令和八年三月二十日讚佛会に御親教相成る

令和八年一月十三日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一二三八号

真宗高田派宗制七十九条第三項により令和八年三月三十一日第一八四臨時宗議会を召集せらる

令和八年二月十九日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 告

宗 告 第一九六号

来る令和八年三月十七日より同二十三日まで讚佛会執行相成る

令和八年一月十三日

宗務総長  
大僧都 増  
中僧都 藤 弓  
田 谷 削  
修 知 弘  
誠 良 胤

宗 告 第一九七号

来る令和八年四月六日より同十一日まで千部法会執行相成る

一、新加入者 六日、七日、八日

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和八年一月十三日

宗務総長  
大僧都 増  
中僧都 藤 弓  
田 谷 削  
修 知 弘  
誠 良 胤

宗 告 第一一九八号

来る令和八年四月六日 内々佛殿永代経執行相成る

令和八年一月十三日

宗務総長	総務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増藤	弓	弓
田	削	削
修	弘	弘
誠	胤	胤

宗 告 第一一九九号

来る令和八年四月九日・十日十万人講法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和八年一月十三日

宗務総長	総務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増藤	弓	弓
田	削	削
修	弘	弘
誠	胤	胤

宗 告 第一二〇〇号

来る令和八年四月十一日午前十一時より戦没者追弔法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和八年一月十三日

宗務総長	大僧都	増	田	修
総務	中僧都	藤	谷	知
総務	中僧都	弓	削	弘
				胤
				良
				誠

任 免

令和七年十月十日

任 名古屋別院副輪番	蓮教寺住職	三井	蓮孝	依請解其職	名古屋別院副輪番	安藤	俊清
名古屋別院総代を命ずる	蓮教寺住職	三井	蓮孝	依請解其職	名古屋別院副輪番	伊藤	真道
名古屋別院責任役員を命ずる	名古屋別院総代	三井	蓮孝	依請解其職	名古屋別院責任役員	安藤	俊清
名古屋別院評議員を命ずる	蓮教寺住職	三井	蓮孝	依請解其職	名古屋別院総代	安藤	俊清
名古屋別院佑事を命ずる	蓮教寺住職	三井	蓮孝	依請解其職	名古屋別院佑事	伊藤	真道
名古屋別院佑事を命ずる	浄泉寺住職	古井戸康心		依請解其職	名古屋別院佑事	野田	智子
				令和七年十二月十七日	教学課		

令和七年十二月三十一日

依請解其職

財政委員会委員

上田 英典

令和八年一月一日

補 関東別院輪番

常専寺前住職

稲毛 千秋

依請解其職

関東別院輪番代務者

藤谷 知良

令和八年二月一日

真宗高田派檀信徒議會議員を委嘱する

玉保院同行

鬼頭 一生

組長交代

令和七年十二月三十一日

依請解其職

三重第十八組組長

龍池 宏昭

依請解其職

三重第二十六組組長

野村 泰志

令和八年一月一日

三重第十八組組長を命ずる

東漸寺住職

東 宏敬

三重第二十六組組長を命ずる

光明寺住職

鳥居 宏暁

僧階

令和七年十二月二十六日

任 中僧都

香椎 宣美

任 少僧都

權中僧都

加藤 慧浩

令和八年一月六日

任 少僧都

小倉 明德

身分堂班

令和七年八月五日

列 其身一代堂班

中老二等

中老一等

老分二等

老分一等

院家二等

宝乗寺衆徒

深見 志保

令和七年十月十日

列 其身一代堂班

老分二等

老分一等

院家二等

院家一等

願行寺衆徒

榎森 良啓

令和七年十二月二十三日

列 其身一代堂班

院家首席一等

准上座格三等

南松寺住職

櫻木谷慈光

令和八年一月十九日

列 其身一代堂班

院家二等

院家一等

院家首席二等

院家首席一等

准上座格三等

見潮寺衆徒

西居 弘基

令和八年一月二十九日

列 其身一代堂班

院家一等

院家首席二等

院家首席一等

准上座格三等

善休寺副住職

千草 善哉

褒賞

令和八年一月十五日

法主褒賞

東海寺住職

新光晴

特許法衣

令和八年一月十二日

一・唐草地模様黒衣着用を許可する

一・唐草地模様布袍着用を許可する

真善寺住職

轟 信宏

令和八年一月十九日

一・薄藤色八藤白大紋差袴着用を許可する

見潮寺衆徒

西居 弘基

還俗

令和七年十二月二十六日

三重県津市戸木町

西向寺衆徒

香椎 裕文

# 布教任命

## 修正会御繙御書（日中）

一・一

権中僧都

水沼 秀明

一・二〇

大律師

北高 大道

## 修正会

一・二

晨朝

権少僧都

真置 信海

一・二七

大律師

高島 光憲

一・三

晨朝

中僧都

藤谷 知良

一・二八

権中僧都

田中 明誠

日中

少僧都

千草 篤昭

一・二九

権中僧都

中村 宜成

## 一月御影堂常在説教（晨朝）

一・四

権中僧都

栗真 光暎

一・七

速夜

権少僧都

高藤 英光

一・五

権大僧都

戸田 栄信

一・八

日中

権少僧都

高藤 英光

一・六

律師

富田 健自

一・九

速夜

律師

田中 唯聰

一・七

律師

若林 妙百

報恩講

初夜

中僧都

佐藤 弘道

一・八

権中僧都

藤浦 弘導

一・一〇

晨朝

律師

松山 智慧

一・九

少僧都

岡 知道

日中

権少僧都

権少僧都

真置 信海

一・一七

権中僧都

栗廼 隆興

一・二一

律師

律師

隆 妙灑

一・一八

律師

津賀 開導

一・二二

中僧都

律師

青木 義成

一・一九

律師

堤 一真

一・二三

大律師

律師

富山 翔真

速夜 律師 水谷 忍英 大講堂 權中僧都 島 義惠

初夜 權中僧都 里榮 秀教 晨朝 權中僧都 權中僧都 栗原 光暁

大講堂 權中僧都 島 義厚 日中(復演) 權中僧都 權中僧都 栗原 廣海

晨朝 律師 吉尾 真祐 速夜 權中僧都 權中僧都 金森 顯宏

日中 權中僧都 戶田 栄信 初夜 中僧都 中僧都 戶田 恵信

速夜 權中僧都 浦井 宗司 大講堂 少僧都 少僧都 花山 光瑞

初夜 律師 富田 健自 晨朝 權中僧都 權中僧都 生桑 崇等

大講堂 權中僧都 松田 信慶 日中 中僧都 中僧都 藤井 徳雄

晨朝 律師 北畠 心淳 大講堂 權中僧都 權中僧都 安田 真源

日中 權中僧都 藤浦 弘導 二月御影堂常在説教(晨朝) 權中僧都 權中僧都 栗廼 隆興

速夜 中僧都 芳川 賢史 權中僧都 權中僧都 藤浦 弘導

初夜 權中僧都 佐波 真教 二・一 權中僧都 權中僧都 栗廼 隆興

大講堂 律師 安藤 純海 二・二 權中僧都 權中僧都 藤浦 弘導

晨朝 權中僧都 三井 蓮孝 二・三 權中僧都 權中僧都 中村 宜成

日中 少僧都 千草 篤昭 二・四 少僧都 少僧都 岡 知道

速夜 律師 大河戸 悟道 二・五 律師 律師 磐城 英嗣

初夜 律師 隆 妙灑 二・六 權中僧都 權中僧都 生桑 崇等

大講堂 權中僧都 中村 宜成 二・七 中僧都 中僧都 佐藤 弘道

晨朝 大律師 松谷 慧光 二・八 權中僧都 權中僧都 戸田 栄信

日中 權中僧都 田中 明誠 二・九 權中僧都 權中僧都 中村 宜成

速夜 少僧都 岡 知道 二・一〇 律師 律師 富田 健自

初夜 權中僧都 栗廼 隆興 二・一一 權中僧都 權中僧都 上杉 祥樹

一・一四

一・一三

一・一二

一・一一

二・一二	權中僧都	栗廼	隆興	二・一〇	日中	權中僧都	田中	明誠
二・一三	大律師	北畠	大道	二・一五	逮夜	權少僧都	高藤	英光
二・一四	律師	若林	妙百	二・一六	日中	律師	水谷	忍英
二・一五	律師	田中	唯聰					
二・一六	律師	隆	妙灑					
二・一七	權中僧都	三井	蓮孝	一・二六	高田慈光院	權少僧都	真置	信海
二・一八	中僧都	南部	義幸	二・一〇、一六、二六	月例法会	權大僧都	浦井	宗司
二・一九	律師	北畠	心淳					
二・二〇	律師	堤	一真					
二・二一	中僧都	青木	義成	一・一五	報徳園	權少僧都	真置	信海
二・二二	權中僧都	田中	明誠	二・一五	月例法会	權中僧都	栗真	光暁
二・二三	律師	吉尾	真祐					
二・二四	大律師	松谷	慧光					
二・二五	大律師	高島	光憲					
二・二六	權大僧都	浦井	宗司					
二・二七	權大僧都	松田	信慶					
二・二八	權少僧都	真置	信海					

二月御影堂常在説教(逮夜・日中)

二・七	逮夜	權少僧都	高藤	英光
二・八	日中	律師	隆	妙灑
二・九	逮夜	權中僧都	藤浦	弘導



敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和七年

十二・二十 三重県津市神戸

松仙寺前坊守

的屋 孝子

令和八年

一・二 三重県亀山市関町木崎

浄安寺住職

松山 深令

贈 権中僧都

一・二十一 三重県津市香良洲町

浄現寺住職

石上 真寛

贈 少僧都

一・三十 三重県津市久居一色町

西蓮寺住職

藤原 克磨

贈 大律師



宗門のお知らせ

報恩講懇志芳名

本年度の報恩講（お七夜）例年通り一月九日より十六日御満座まで御執行成り、念仏相続の喜びを十分に味わう事ができました。

ご懇志芳名を左のとおり記載し感謝の意を表します。年に一度のご正忌です。祖徳を偲び来年も懇志をよせられます様お願いします。

本寺専修寺

京都別院

名古屋別院

北海道別院

関東別院

横浜別院

三重第一組西部

智慧光院 玉保院

慈智院

三重第一組東部

成願寺 勝樂寺

浄泉寺

浄運寺

明覚寺 慈光寺

三重第二組甲部東

東海寺 信行寺

長安寺

万年寺

大円寺 善行寺

満願寺

三重第二組甲部西

浄光寺 重願寺

誓教寺

妙教寺

啓運寺 浄泉寺

三重第二組乙部

法流寺 願正寺

實相寺

長久寺

真楽寺 西源寺

豊久寺

三重第三組

延命寺 浄誓寺

南昌寺

本徳寺

光澤寺 潮音寺

教圓寺

積善寺

深正寺 善徳寺

心覚寺

報恩寺

彰見寺 上宮寺

三重第四組

善休寺 西勝寺

泰應寺

泉光寺

近縁寺 清雲寺

願成寺

勝鬘寺

慈相寺

三重第五組

法泉寺 光徳寺

仲安寺

圓照寺



宗門のお知らせ

三重第十四組

長徳寺 光明寺 正全寺 報国寺  
 宝林寺 恵日寺 称名寺 正法寺  
 西林寺 蓮光寺 西蓮寺 伝福寺  
 法光寺 松原寺 来照寺 正運寺

三重第十五組

常福寺 光善寺 明林寺 誓正寺  
 光圓寺 誓信寺 真善寺 清福寺  
 善性寺 福泉寺 誓昌院 永信寺  
 法善寺 西徳寺 西信寺

三重第十六組南部

福萬寺 青蓮寺 西生寺 西願寺

浄国寺 浄福寺

三重第十六組北部

保智院 海善寺 真念寺

光輪寺 光善寺

三重第十七組北部

玉泉寺 深廣寺 一乗寺 法雲寺  
 西岸寺 遍照寺 正福寺 本念寺

乘願寺

三重第十七組南部

教安寺 心光寺 西願寺 唯願寺  
 西法寺 願正寺

三重第十八組

龍泉寺 蓮光寺 善教寺 光源寺  
 興正寺 成満寺 願誓寺 来教寺

立法寺 聖洞寺 中山寺

三重第十九組甲部

常信寺

三重第十九組乙部

大雲寺 願行寺

三重第二十組

常超院 信最寺 万性寺 正覚寺

栄信寺 法泉寺 浄福寺 大蓮寺

西唱寺 顕正寺 西光寺 欣浄寺

誓元寺 誓覚寺

三重第二十一組東部

信福寺 正行寺 法林寺 真永寺  
 養元寺 三誓寺 高山寺 宣隆寺

正源寺

宗門のお知らせ

三重第二十一組西部	光明寺	勝光寺	本立寺	林昌寺	法專寺	三重第二十五組南部	唯信寺	西方寺	最勝寺	信光寺	
本浄寺	光福寺	念聲寺	崇徳寺	三正法寺	満流寺	青龍寺	林昌寺	正因寺	壽善寺		
三重第二十二組西部	聖徳寺	金光寺	正信寺	欣念寺	三重第二十五組北部	専照寺	三重第二十六組	花山寺	井福寺	本覚寺	正圓寺
蓮花寺	弘善寺	西運寺	佛教寺	台蓮寺	常念寺	眞臺寺	常教寺	常寶寺	西林寺		
三重第二十二組東部	寶祥寺	心海寺	見潮寺	宗休寺	善昌寺	光明寺	海念寺	常寶寺	三重第二十七組	光蓮寺	妙華寺
三重第二十三組	称名寺	願行寺	宗休寺	善昌寺	隨念寺	三重第二十七組	西林寺	蓮性寺	光蓮寺		
隨願寺	法林寺	心覚寺	隨念寺	良珠院	淨徳寺	西向寺	光泉寺	栄松寺			
西光寺	撰取院	壽福院	良珠院	慈教寺	三正法寺	正蓮寺	光泉寺	栄松寺			
常超院	三重第二十四組甲部東	眞昌寺	慈教寺	誓覚寺	本念寺	直轄	大仙寺				
本照寺	正念寺	大音寺	誓覚寺								
三重第二十四組甲部西	正楽寺	要泉寺									
三重第二十四組乙部	成泉寺	清涼寺	蓮性寺	西蓮寺							

宗門のお知らせ

愛知第一組

至誠院

久遠寺

正覺寺

願隆寺

愛知第九組

西蓮寺

松林寺(豊田)

松林寺(名塚)

愛知第二組

教津坊

静岡県

光福寺

浄圓寺

愛知第三組

万福寺

浄泉寺

幸蓮寺

海隣寺

神奈川県

常専寺

甚行寺

愛知第四組

常德寺

法性寺

妙法寺

眞福寺

東京都

正福寺

永福寺

唯念寺

願信寺

榮久寺

蓮教寺

常照寺

教圓寺

岐阜県

善教寺

愛知第五組

満性寺

蓮珠寺

祐傳寺

聖洞寺

滋賀県

流泉寺

愛知第六組

東照寺

浄泉寺

京都府

常樂寺

大仙寺

安立寺

東泉寺

教聖寺

善明寺

祐福寺

大阪府

一乗寺

正覺寺

聖賢寺

大乘寺

聖眼寺

西藏寺

願成寺

福井第二組

愛知第八組

光明寺

大願寺

稱名寺(彦立)  
真浄寺

北海道

浄曉寺

長正寺

高山寺

専誠寺

大徳寺 願誠寺 眞宗寺 弘専寺  
誠満寺 真高寺 莊嚴寺 淨光寺  
聖賢寺 願勝寺

(二月六日現在)

専修寺竹あかり くやすらぎの光

今年竹あかり作家川瀬皓平氏の作品と子ども竹あかりの展示のほかに、一身田小学校や高田学苑の生徒たち、さらには一般応募の方々も多数参加して約三〇〇本を展示しました。

たくさんのおさなあかりが集まって、浄土のやすらぎに満ちた世界のように、あたたかい光で境内を照らしました。

また、一月十一日(日)と十二日(月・祝)は、魯あすか氏エレクトーン特別演奏会も開かれ多くの参拝者が御影堂に集まりました。

お七夜はたちの集い

本年は一月十二日(月・祝)に、はたちの集いが執り行われました。

速夜に中陣参拝したあと、賜春館で法嗣殿よりお言葉をお聞かせいただきました。

また、参加者には将来の抱負を短冊に書き留めてもらい、志を新たにしたいはたちの門出をお祝いしました。

お七夜婦人連合会

一月十三日(火)お七夜婦人連合会が多くの参加者のもと御影堂に於いて開催されました。

式典では、婦人会代表の方が献花・献灯・献香を行い、法主殿よりお言葉を賜りました。その後、速夜勤行に参拝し豊橋市正太寺住職の大河戸悟道師のお説教を皆で聴聞しました。

### お七夜坊守会

一月十四日（水）に開催されたお七夜坊守会には、県内外からの坊守様にご参加をいただきました。

昨年同様に、はじめに逮夜参拝をいたしました。その後、逮夜の説教師であった四日市市立法寺住職岡知道師を第一会議室にお招きして、アンケートを元に座談会を開き、より詳しくみ教えを紐解いていただきました。

### お七夜婦人会初夜参拝

一月十五日（木）に恒例のお七夜婦人連合会初夜参拝が行われました。

三重県各地から集われた婦人連合会の方々や一般の参拝者のほかに、竹あかりを観賞に来られた参拝者も加わって、初夜が始まる午後四時三十分にはたくさんの方が専修寺御影堂に集まりました。

初夜勤行では法主殿が報恩講式の初段・二段・三段を御通読されました。続いて岡崎市浄泉寺住職戸田惠信師のお説教を聴聞して午後七時頃に法会が終了しました。

今年のお七夜は寒い日が多かったですが、境内いっぱい竹あかりを観賞される方々の笑顔は温かく印象的でした。

### お七夜子ども大会

本年は、しばらく中止していたお七夜子ども大会を開催しました。式典では、法嗣殿よりお言葉をいただきました。またお七夜献書展で受賞された子ども達の表彰もあって、予想を大きく上回る百名以上の参加希望者が集まり、近年稀にみる大盛況でした。

ののさまを描こう展

今年は十五園から三六〇点のご参加をいただき、園児たちの愛らしいののさまに心癒されました。

お七夜献書展

今年は六五二点の出品があり、例年通り廊下に展示しました。本年も甲乙付け難い良い作品が集まりました。また各賞は直接教室ごとにお渡ししました。

責任役員会

一月十三日(火)御影堂にて十一時四十五分頃より、法主殿御臨席のもと開催されました。

各寺院の責任役員約二一〇名参加の中、法主殿よりお言葉をいただきました。宗務総長挨拶に続き、庶務・教学総務より山政報告の説明がありました。

法主褒賞

本年の授賞者

・三重県津市白塚町

東海寺住職

新光晴師

新師におかれましては昭和五十年宝物館主幹に就任し、法宝物の管理運営に尽力されると共に高田派鑑学並教学院院長として活躍されるなど宗門に多大な功績を残されました。

ここに授賞されました新師のご功績を称え、心よりお祝い申し上げます。

同和問題に取り組む会報告

・活動報告

毎月の定例会や、真宗高田派人間解放の集い公開講座を通し、派内外の人権啓発に努めた。

## 宗門のお知らせ

・教団内の人権意識を高める啓発、施策

真宗高田派人間解放の集い公開講座

二〇二五年 三月三日（月） 高田会館ホール

「宗教課題としての部落解放運動」

真宗大谷派 慶法寺前住職 藤井慈等 師

公開講座当日は県内外から多くの聴講があり、

講師の長きにわたる歩みと部落解放運動の歴史に触れるとともに、今後の課題を考える機会を得た。

なお、今回の講座については冊子化する予定である。

・今後の予定

真宗高田派人間解放の集い公開講座

二〇二六年 三月三日（火） 高田会館ホール

「水平社宣言とジェンダー」

浄土真宗本願寺派 常蓮寺住職 岩本智依 師

## 中学生教化合宿のお知らせ

本年は三月三十日（月）からの二泊三日で、本寺参拝をはじめ東京ディズニーシーや土肥金山にも立ち寄る予定となっております。多くの参加者を募集いたします。

詳しくは教学課までお尋ねください。

## 花まつり

今年四月十九日（日）に開催されるお釈迦さまの御誕生をお祝いする行事です。中学生までのどなたでもご参加いただけます。詳しくは教学課までお尋ねください。

興学布教研究大会のお知らせ

四月二十九日(水)十時より高田会館ホールにて興学布教研究大会を開催いたします。

開会式を行なった後、三名の方に発表していただきます。

発表者

津市	上宮寺衆徒	清水谷亮慶	師
四日市市	正泉寺前住職	北島 義信	師
四日市市	中山寺衆徒	松谷 慧光	師

教学院だより

教学院主催

教学院公開講座案内

布教伝道研修講座

第二回

日時 令和八年四月十四日(火)

午後一時半 開講

会場 高田会館ホール

実演発表

講師 花岡 静人 師

(本願寺派布教師・勝光寺住職)

実演者

真昌 一竜 師(三重十六組北)

真念寺衆徒)

森田 暢明 師(三重二十組)

誓元寺衆徒)

真宗入門講座 第十三期

「一光三尊仏をめぐって」

第四回

日時 令和八年四月二十二日(水)

午後一時半～三時半

第四幅「高田派と一光三尊仏」

講師 島 義恵 研究員

会場 高田会館 ホール

どなたさまもご自由に聴聞ください。

宗門のお知らせ

本山行事予定

(三月・四月)

三月十七日～二十三日

讃佛会

三月三十日～四月一日

中学生教化合宿

四月六日～十一日

千部法会

四月九日～十日

十万人講法会

四月十一日

戦没者追弔法会

四月十九日

花まつり

四月二十三日

第七十八回檀信徒研修会

四月二十九日

興学布教研究大会

下付金のお知らせ

令和元年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

(令和七年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意下さい。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。

## 令和8年・9年度高田短期大学仏教教育研究センター 仏教専門講座（高田本山寄附講座）実施要項

高田短期大学仏教教育研究センターでは、高田本山からの寄附によって履修証明プログラム「仏教専門講座（高田本山寄附講座）」を開講いたします。本プログラムでは、仏教を開かれた釈尊の教えや真宗の宗祖親鸞聖人が歩まれた仏道を学ぶことができます。多くの方のお申し込みをお待ちしております。

### 令和8年度 専門講座の内容

- ・日程 令和8年4月24日（金）～令和9年3月5日（金）
- ・科目 「仏教学概説」「仏教学講読Ⅰ」「高田の宗風」「真宗学講読Ⅰ・Ⅲ」  
※他の講座については、令和9年度に開講します。
- ・場所 高田短期大学
- ・テキスト 『真宗高田派聖典』 定価15,000円  
（真宗高田派聖典編纂委員会編 春秋社刊 2012年1月16日発行）
- ・受講対象者 仏教および真宗を学びたい方
- ・定員 対面：40名 オンライン：希望者全員
- ・受講料 テキスト代 15,000円
- ・募集期間 令和8年3月2日（月）  
～3月19日（金）
- ・申込方法 下記アドレスまたは、  
右のQRコードより  
お申し込みください。



<https://www.takada-jc.ac.jp/campus/bukkyo/kouza-senmon/>

### 真宗高田派学階授与について

「専門講座」の10科目を履修し、すべての単位（20単位）を修得した真宗高田派教師に「助教」の学階を授与します。

### 真宗高田派布教使の認定について

真宗高田派学階「助教」以上の学階を有し、所定の研修を満了した（※）者を布教使と認定します。

※所定の研修とは、本山主催、教学院主催の法話発表会に各1回発表すること。本山常在説教で10席以上布教すること。

### 「専門講座」の申し込み、お問い合わせ

高田短期大学仏教教育研究センター仏教専門講座係

〒514-0115 三重県津市一身田豊野195

電話 059-232-2310（代表）

### 「学階」「布教使」のお問い合わせ

真宗高田派宗務院教学課

電話 059-232-4171

真宗高田派共済会のご案内

●全寺院対象の共済制度●

真宗高田派共済会運営規程による各種制度

○見舞金

- ・本堂全焼及び全壊 100万円
- ・本堂半焼及び半壊 60万円
- ・庫裏全焼及び全壊 60万円
- \* 災害を証明する書類が必要
- ・境内地並境内建物が災害を被った時は、2万円をお見舞いする
- \* 被害総額が100万円以上の場合となります

○祝金

- ・本堂新築及び改築 60万円
- ・本堂を除く境内建物の新築および改築 10万円
- \* 工事費が1千万円以上の場合となります
- \* 高田派代表役員が発行した新築・改築の承認書と  
工事契約書の写しが必要

○住職退職慰労金（住職の死亡から6ヶ月以内に申請のこと）

在任期間により給付金が異なります

- ・住職在任80年以上90年未満 90万円
- ・住職在任70年以上80年未満 80万円
- ・住職在任60年以上70年未満 70万円
- ・住職在任50年以上60年未満 60万円
- ・住職在任40年以上50年未満 50万円
- ・住職在任30年以上40年未満 40万円
- ・住職在任20年以上30年未満 30万円
- ・住職在任10年以上20年未満 20万円
- ・住職在任10年未満 10万円

○香料（退職から6ヶ月以内に申請のこと）

上記住職退職慰労金を適用する但し慰労金を支給された住職は該当しない

○真宗教学奨学金（毎年4月末日までに申請のこと）

- ・高等学校生及び真宗各派の専修学院生 月額 2万円 若干名
- ・大学生及び大学院生 月額 4万円 若干名
- 月額 8万円 若干名

○奨励金（毎年4月末日までに申請のこと）

共済会が指定した学校学部にて入学したときに

4万円を支給します。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

真宗高田派共済会 真宗高田派宗務院内

電話 059-232-4171 FAX 059-232-1414

## 人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

令和八年二月二十日印刷  
令和八年二月二十日発行

三重県津市一身田町二八一九番地  
電話（〇五九）二三二一四一七一  
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇一五〇一〇一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三一二〇七〇

パスワード TA21da61（半角英数文字です）